

2023年6月8日

報道関係者各位

第5回日本在宅医療連合学会大会広報事務局

第5回日本在宅医療連合学会大会  
市民公開講座  
「ラグビーと難病～地球を救うサステイナブルな強さ～」開催  
2023年6月25日（日）13:30-15:30

一般社団法人日本在宅医療連合学会は2023年6月25日、「ラグビーと難病～地球を救うサステイナブルな強さ～」と題する市民公開講座を、ハイブリッド形式にて開催いたします。本市民公開講座は、ラグビーの「One for all, all for one」のチームワークと、難病を支えるテクノロジーに関するゲストの対談を通じて、在宅医療を考えることを目的としています。

在宅医療は、多くの人々が協力しながら、ひとりひとりの患者さんに合わせたサポートを行う医療です。在宅医療は、私たちが自分らしく質の高い生活を送るために必要な医療であり、私たちの「生きる力」「本来の健康」につながるサステイナブルな医療です。

本市民公開講座は二部構成で開催します。第一部は、「日本はどうして強くなったのか？」というテーマで、在宅医療を考えます。ラグビーにおいて、チームの中でお互いを信頼し合う「One for all, all for one」という関係は、在宅医療における人としての基本的な関係にも通じる概念です。ラグビー元日本代表の大野均さんとラグビージャーナリストの村上晃一さんをゲストに迎え、ラグビーと在宅医療に関して対談形式でお話します。

第二部は、「様々なイノベーションをおこす」というテーマで、在宅医療を考えます。分身ロボット OriHime の開発者である吉藤オリイさんと、視線入力装置を介したゲームを通じて難病のお子さんの生活を支える工学者の伊藤史人さんをゲストに迎え、日々進化している難病患者さんの生きやすい社会を実現させるためのテクノロジーと在宅医療について考えます。

本市民公開講座は、どなたでも無料でご参加いただけます。この機会に是非ご参加ください。

以上

## ▼スペシャルゲスト（例）

【第一部】ラグビーは地球を救う！  
日本はどうして強くなったのか？



大野 均 氏  
(ラグビー元日本代表選手)

【第二部】難病は地球を救う！  
様々なイノベーションをおこす



吉藤 オリイ 氏  
(株式会社オリイ研究所 CEO)

▼イベント案内チラシはこちらから

<https://onl.bz/vVCxvML>

▼イベント参加申込はこちらから

<https://onl.bz/ujgM8de>

## ▼開催概要

日 時： 2023年6月25日（日）13:30 - 15:30  
 形 式： 会場、オンライン同時配信予定  
 会 場： 朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター） 〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島 6-1  
 オンライン： 参加申込のメールアドレス宛に視聴 URL（Zoom）をお送りいたします  
 参加費： 無料  
 プログラム： 二部制  
           【第一部】ラグビーは地球を救う！ 日本はどうして強くなったのか？  
           【第二部】難病は地球を救う！ 様々なイノベーションをおこす  
 主 催： 一般社団法人日本在宅医療連合学会  
 後 援： 新潟県ラグビーフットボール協会、株式会社新潟放送他  
 参加申込方法： 下記リンクよりお申し込みください



<https://forms.office.com/r/HDiUp4LB>

参加申込期限： 2023年6月20日（火） 17:00 予定

※ 報道関係者は本プレスリリース末尾よりお申し込みください

※ オンライン参加ご希望の報道関係者は一般と同じ上記 URL からもお申し込みいただけます

[一般参加者のお問い合わせ先]

日本コンベンションサービス株式会社 東北支社内 E-mail: [5jahcm@convension.co.jp](mailto:5jahcm@convension.co.jp)

## ▼登壇者

## 【第一部】

## ゲスト 大野 均 氏（ラグビー元日本代表選手）

1978年生まれ 福島県郡山市出身。高校までは野球部に所属。進学した日本大学工学部でラグビーを始める。2001年東芝プレイブルース入団。2004年日本代表初選出。2007年、2011年、2015年と3大会のワールドカップに出場。2015年大会では南アフリカ戦勝利に貢献。13年間日本代表でプレーし、国際試合98試合出場は日本代表歴代最多。現在、東芝プレイブルース東京アンバサダーに就任。



## ゲスト 村上 晃一 氏（ラグビージャーナリスト）

1965年京都市生まれ。京都府立鴨沂高校から大阪体育大学でラグビーのポジションは、センター、フルバック。87年ベースボール・マガジン社入社、ラグビーマガジン編集部勤務し、90～97年同誌編集長。98年からラグビージャーナリストとして、スポーツ専門局 JSPORTS でラグビー解説を継続中。1999年から2019年の6回のラグビーワールドカップで現地コメンテーターを務めた。ラグビーシンポジウム、トークイベントなどの進行役多数。



## 司会 井手口 直子 氏（第5回日本在宅医療連合学会大会 副大会長、帝京平成大学薬学部教授）



## 【第二部】

## ゲスト 吉藤 オリイ 氏（株式会社オリイ研究所 CEO）

自身の不登校時に感じた「孤独」から、人生のミッションを「孤独の解消」とし、分身ロボット OriHime を開発。2012年に株式会社オリイ研究所設立。ALSの患者とともに視線入力で OriHime を操作する OriHime eye や、寝たきりでも仲間とともに働ける「分身ロボットカフェ DAWN」を常設店として、開店した。難病勉強会や難病の人も参加できる OriHime によるスポーツ大会、音楽、開発イベントなどを多数実施している。



**ゲスト 伊藤 史人 氏（島根大学総合理工学研究科）**

一橋大学情報基盤センター助教を経て 2014 年から現職。専門は医用画像処理および福祉情報工学。近年は、重度障害児・者向けアプリケーションの開発と普及を進めており、そのうち視線入力技術を活用した重度障害児支援システム EyeMoT（アイモット）は、全国のほとんどの支援学校で導入されている。パリアフリーマップアプリ WheelLog! の最高技術責任者。2017 年、日本賞（クリエイティブ・フロンティア部門）最優秀賞受賞 ほか。

**司会 川口 有美子 氏（ノンフィクション作家、さくら会）**

ALS 患者と家族の葛藤を描いた「逝かない身体—ALS 的日常を生きる」(医学書院) で 2010 年第 41 回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2013 年立命館大学大学院先端総合学術研究科博士（学術）課程修了。研究領域は難病や障害などで生き難さを抱える人々の政策と倫理。全国各地の神経筋疾患患者の在宅 24 時間 365 日介護保障を推進し、喀痰吸引等をおこなうヘルパーの養成を支援してきた。

**司会 中島 孝 氏（第 5 回日本在宅医療連合学会大会 大会長、国立病院機構新潟病院院長）****総合司会 町 亜聖 氏（フリーアナウンサー、元ヤングケアラー）**

1995（平成 7）年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、活躍の場を報道局に移し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011（平成 23）年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした 10 年の日々、そして母と父をがんで亡くした経験から医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動が続ける。

**【一般社団法人日本在宅医療連合学会について】**

一般社団法人日本在宅医療連合学会は、それまで 20 年もの歴史を持っていた日本在宅医学会と、29 年の歴史を持っていた日本在宅医療学会が合同し、2019 年に発足しました。（1）在宅で療養するすべての人の尊厳を守り、本人と家族の QOL（人生および生活の質）の向上をはかる、（2）療養者自らの生き方を尊重し、それを実現するための支援を行う、（3）質の高い在宅医療の実践を通じて、人生の最終段階も含め、安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献する、（4）生活やいのちを支えるための叡智を集約し、新しい在宅医学を創造する、という 4 つのビジョンを掲げています。学術大会や地域フォーラム、各種セミナー・養成講座の他に在宅医療専門医の資格取得制度も実施しています。

**参加希望の報道関係者お申込み方法**

下記リンク内の注意事項をご一読の上、指定の同意書を事前にアップロードし、リンク内下部のプレス事前登録フォームよりお申込ください。

<https://site2.convention.co.jp/5jahcm/coverage.html>

登録締切： 6 月 19 日（月）



[お問い合わせ先]

日本コンベンションサービス株式会社 東北支社内 E-mail: [5jahcm@convention.co.jp](mailto:5jahcm@convention.co.jp)

## ▼「第5回日本在宅医療連合学会大会」注目の企画

※2023年6月1日時点



プログラムはWEBページ参照

<https://site2.convention.co.jp/5jahcm/program.html>

**2023年6月23日（金曜日）18:00～19:00 第3会場 メインホール B**

**第5回日本在宅医療連合学会大会 記念特別講演 新潟県の在宅医療のリーダーから**

Cure しえない難病患者の Care から、多職種協働の地域ケアシステム作りへー新潟市での半世紀の模索を振り返るー堀川楊  
在宅医療の豊かさが高齢者の仕合せー高齢者の仕合せを共に物語として発見し、聴き、人生をたたえ、手を握ることが原則ー黒岩卓夫

**2023年6月25日（日曜日）10:10～12:10 第1会場（展示ホール B）**

**特別企画 医療政策としての在宅医療**

特別講演 1 日本の社会保障の未来を考える

座長：鈴木榮一 演者：佐久間寛道（財務省主計局） ※演者未定

特別講演 2 在宅医療における厚生労働省の施策について

座長：塚田芳久 演者：鷲見学（厚生労働省医政局地域医療計画課課長）

特別シンポジウム 「医療政策としての在宅医療ー第8次医療計画 から日本社会に最適なかかりつけ医機能の構築へ」

演者：武田俊彦（元厚生労働省医政局長、日本在宅ケアアライアンス副理事長）

演題名：第8次医療計画における在宅医療の概要と展望

演者：小柳亮（新潟県医師会理事、日本医師会医療政策会議かかりつけ医 WG 委員）

演題名：新潟県における在宅医療推進と第8次医療計画への期待

演者：高砂裕子（全国訪問看護事業協会副会長 8次医療計画検討会 在宅 WG 委員）

演題名：在宅医療の質向上と普及のための訪問看護師の重要性と育成

演者：小川聡子（全日本病院協会理事、調布東山病院理事長）

演題名：地域医療における民間病院の今後の役割と在宅医療連携

演者：新田國夫（日本在宅ケアアライアンス理事長、日本医師会医療政策会議かかりつけ医 WG）

演題名：在宅医療とかかりつけ医機能について

**2023年6月25日（日曜日）8:00～9:00 第10会場 国際会議室**

**海外招聘特別講演（英日同時通訳）**

演者：Martin Härter（University Medical Center Hamburg-Eppendorf Department of Medical Psychology）

演題名：Shared Decision Making – the Cornerstone of Person-Centred Care

**2023年6月24日（土曜日）8:00～11:10 第10会場 国際会議室**

**日台在宅医療国際シンポジウム（逐次通訳）**

**2023年6月24日（土曜日）8:00～10:00 第1会場（展示ホール B）**

**シンポジウム 1**

セッションテーマ：在宅など医療介護におけるビッグデータ活用の展望～地方行政 DX 事業と分析事例

**2023年6月24日（土曜日）10:10～11:10 第1会場（展示ホール B）**

**基調講演**

演者：山海嘉之（筑波大学サイバニクス研究センター）

セッションテーマ：異分野融合で加速するサイバニクス医療健康イノベーション～ 病院と在宅、医師と患者が繋がる健康未来社会に向けて ～